



## 原油続伸 備蓄補充の前倒し観測

9日のニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で原油先物相場は3日続伸した。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）で期近の6月物は前日比0.55ドル（0.8%）高の1バレル73.71ドルで取引を終えた。米国が備蓄の補充を前倒しするとの観測が支えとなった。

原油先物相場は先週に一時63ドル台と2021年12月以来の安値を付けた。大幅に調整したことで、米政府が設備の補修などが終われば、年内に戦略石油備蓄の補充を始めるとの一部報道が伝わった。米国の石油需要を支えるとの観測から、原油先物に買いが入った。

もともと、上値は重かった。中国の4月の貿易統計では、原油輸入が減少したことが分かった。経済活動の再開とともに石油需要が増えるとの見方が揺らぎ、売りが優勢となる場面があった。

10日発表の4月の米消費者物価指数（CPI）がインフレ圧力の根強さを示し、米連邦準備理事会（FRB）が利上げを継続するとの観測が強まると警戒されている。米債務上限問題も投資家心理の重荷だった。



## サウジ原油調整金、4カ月ぶり下げ 6月積み

サウジアラビア国営石油のサウジアラムコは、6月積みのアジア向け原油の調整金を引き下げる。代表油種の「アラビアンライト」は5月積みから0.25ドル安い1バレルあたり2.55ドルの割り増しとする。引き下げは4カ月ぶり。世界的な金融不安や景気減速懸念による原油需要の鈍さを映した。

日本の石油会社がサウジと結ぶ長期契約の価格は、ドバイ原油とオマーン原油の月間平均価格を指標とし、油種ごとに調整金を加減して決まる。

6月積みは5油種全てで調整金が引き下げとなった。引き下げ幅が最も大きかったのは重質の「アラビアンヘビー」で、5月積み比べて0.9ドル引き下げて0.35ドルの割り増しとした。

重質油は中国で多く使うとされ「電気機器や自動車などの製造業の回復が遅れている」（ニッセイ基礎研究所の上野剛志上席エコノミスト）ことを反映したもようだ。

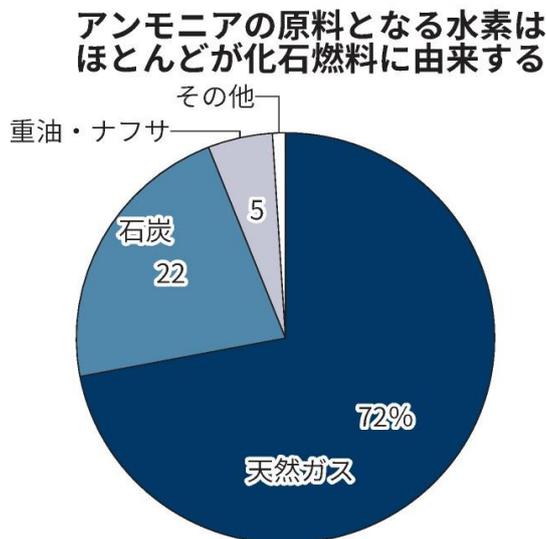
最も軽質の「スーパーライト」は4.30ドルの割り増し、軽質の「エキストラライト」も2.10ドルの割り増しと、それぞれ0.7ドル引き下げた。いずれも2021年11月以来の低水準となった。

米国のファースト・リパブリック・バンク（FRC）の経営破綻など金融システムへの不安がくすぶる。米サプライマネジメント協会（ISM）の製造業景況感指数も4月まで6カ月連続で好不況の節目の50を割り込んだ。景気が停滞し、需要が冷え込むとの懸念が強まっている。



## 水と窒素からアンモニア合成、触媒寿命15倍に 東京大学

東京大学の西林仁昭教授らは、水と窒素などからアンモニアを合成できる触媒の性能向上に成功した。触媒の寿命を従来の15倍に伸ばしつつ、アンモニアを合成する速さを約7倍にした。燃やしても二酸化炭素（CO2）が出ないアンモニアは脱炭素社会の燃料として期待されている。西林氏らは実用化に向けて触媒の改良を続ける。



(出所)国際再生可能エネルギー機関

NIKKEI

現在、アンモニアの大量生産では鉄を主体とする触媒を使い、高温・高圧状態で空気中の窒素と水素を反応させるハーバー・ボッシュ法が広く採用されている。約100年前に確立した製法だが、原料となる水素はコストが安い天然ガスに含まれるメタンから取り出すケースが多く、製造プロセスで大量のCO2が発生していた。

西林氏らは出光興産や日産化学、東芝などと金属のモリブデンを触媒に使って水と窒素などからアンモニアを合成する共同研究に取り組んでいる。新たなモリブデン触媒では合成する速さが従来の約7倍になり、常温・常圧状態でも活性があることを確認した。

モリブデン触媒をアンモニアの合成に使える回数は従来は約4000回が上限だったが、今回開発した触媒は新たな分子を追加して15倍の約6万回に増やした。大量生産に用いるには反応速度などの面でなお改良が必要だが、西林氏らは触媒の利用可能な回数を10万回に増やすことを当面の目標としている。

アンモニアは肥料などの原料として人々の食生活を支えているが、製造過程におけるCO2排出量は世界全体の1%強を占めるとされる。脱炭素社会の実現には新たな量産技術が不可欠とされている。



## 米債務上限問題、進展なく 大統領・下院議長12日再協議

バイデン米大統領は9日、連邦政府債務の上限引き上げを巡り、下院で多数派を握る野党・共和党のマッカーシー下院議長とホワイトハウスで会談した。債務不履行（デフォルト）回避に向けた引き上げの合意には至らなかった。デフォルトの可能性がある6月1日まで残り3週間となり、市場では警戒感が高まっている。

マッカーシー氏が会談後、記者団に「新しい動きは見られなかった」と明らかにした。12日にも再協議する見通しだ。

米国では政府債務に限度額が定められている。米議会が6月までに上限の引き上げか停止を決定しなければ、国債の元本償還や利払いに回す資金が調達できなくなる。米財務省は6月1日にも危機が来ると警告している。

9日の会談は債務上限を上げる条件として厳しい歳出削減を求める共和と、無条件の引き上げをめざすバイデン政権との間で平行線だったとみられる。共和は気候変動対応などバイデン政権の看板政策を削る案を示しており、政権側は受け入れづらい。

バイデン氏とマッカーシー氏の会談は2月1日以来で、およそ1時間に及んだ。協議には米議会の各党リーダーも交えた。上院から与党・民主党のシューマー院内総務と共和のマコネル院内総務、下院から民主のジェフリーズ院内総務が出席した。

デフォルトまでの期限が迫るなか、一時的に債務上限を引き上げて合意までの時間をつくる選択肢もありえるが、マッカーシー氏は9日、会議を前に反対の姿勢を示した。あくまで政権側に早期の妥協を求める。ホワイトハウスのジャンピエール大統領報道官も同日「私たちのプランではない」と語った。

バイデン氏は日本で開く主要7カ国首脳会議（G7サミット）出席など5月中は海外訪問の予定が詰まる。米議会の日程を考慮すると、6月1日までにバイデン氏と上下両院の各党リーダーが集まれる日程は限られる。

イエレン米財務長官は議会が債務上限を引き上げなかった場合「経済的な大惨事になる」と警告している。「基軸通貨としてのドルに悪影響を及ぼす」とも指摘した。



## 週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	3/28～4/3	78.69	3.86	133.23	1.04	65.94	3.73
	4/4～4/10	84.79	6.10	132.96	▲0.27	70.90	4.96
	4/11～4/17	85.95	1.16	134.41	1.45	72.66	1.76
	4/18～4/24	82.71	▲3.24	135.39	0.98	70.43	▲2.23
	4/25～5/1	79.51	▲3.20	135.57	0.18	67.79	▲2.64
	5/2～5/8	74.56	▲4.95	137.41	1.84	64.44	▲3.35
水曜日～ 火曜日	3/29～4/4	79.53	4.12	133.63	1.55	66.84	4.20
	4/5～4/11	84.69	5.16	133.13	▲0.50	70.91	4.07
	4/12～4/18	86.17	1.48	134.61	1.48	72.95	2.04
	4/19～4/25	82.16	▲4.01	135.37	0.76	69.95	▲3.00
	4/26～5/2	78.87	▲3.29	136.23	0.86	67.58	▲2.37
	5/3～5/9	73.71	▲5.16	136.24	0.01	63.16	▲4.42

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート